

令和3年6月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会
 〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内
 TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



鷹山宇一「平原」1953年 キャンバス・油彩
 第38回二科展出品（七戸町蔵）

「平原」

今回は1953年、鷹山45歳の時の作品「平原」をご紹介します。

手前に大きく描かれている植物。その上を20頭の蝶が舞っています。奥に目を向けると、自転車に乗る3人の人物がシレットとして浮かび上がります。夕暮れ時のようなことなく懐かしい雰囲気を感じさせます。その人物に注目すると、先頭は自転車を降りて歩いており、2番目の女学生は少し遅れている3番目の友人を待っているようにも見えます。学校からの帰り道、仲の良い若者が自転車で下校する情景なのでしょう。3人は何を語りながら歩んでいるのだろうか。かと想像が膨らみます。

1945年に第二次世界大戦の終戦を迎えて、日本は厳しい生活を強いられました。作品が描かれた1950年代は、経済が急激に復興し、人々の暮らしも徐々に良くなってきた時代です。自転車に乗り仲良く語り合う若者の姿はこれからやってくる新たな時代を象徴するものとして、鷹山は夢や希望を託したのかもしれない。

また、画面の上に帯を成すように美しく舞う20頭の蝶たちは、画面に彩りを添え、柔らかな動きを与えます。これから始まる未来を感じさせるような作品です。

学芸員 遠藤未奈子

鷹山宇一記念美術館友の会

令和三年度通常総会開催



通常総会に先立ち来賓挨拶される高岡和人新理事長

鷹山宇一記念美術館友の会令和3年度通常総会が令和3年6月5日午後2時から開催され、令和2年度事業報告、貸借対照表並びに収支計算書及び令和2年度剰余金処分案、令和3年度事業計画(案)及び会員計画(案)並びに収支予算書(案)等全ての承認議案が原案のとおり可決され本年度の事業体制が整いましたことを報告します。なお、通常総会議案書を別添のとおり同封致します。

本年度も、友の会会員のご理解とご協力をお願い申し上げます。

画集「鷹山宇一の世界」(2014年12月発行)以下「画集」に掲載されている「八幡岳」や「八甲田」等の風景探しがきっかけで始めた一日一万歩運動でしたが右足裏に痛みが生じたので3ヶ月目にして中止。一ヶ月ほどで痛みが和らぎ回復してからは、歩数を定めず、目的を気分転換と森林浴等に切り替えて再開、現在も継続しています。無論、七戸町を訪問するときは画集を携えて散策しています。

5月中旬、画集13頁に掲載されている「盛田牧場・南部曲屋」と題する作品に描かれている「菓箱」がかけられている樹木の存在が気になってハッピーファーム(有会社金子ファームが2006年設立)を訪ねました。

画伯がこの作品を制作したのは作品目録によると1925～1927年頃ですから、いまでは樹木も成長し、菓箱だつてありませんが、当時の面影を残す曲屋周辺を散策しながら、菓箱がかけられていたのは曲屋との位置関係から推測すると左側のあの赤松、右側はあのモミジかイチイの木ではないだろうか、さらには、どの辺りから見た風景なのかを知りたくて現地と画集を交互に見比べながら、ここでも無い、あそこでも無いとあちこちと

画集を携えて Part V 『南部曲屋』を訪ねて

八戸市 照井壽一



南部曲屋風景(5月中旬)

移動しながら風景探しを楽しみました。

南部曲屋からケヤキ並木を少し奥まで歩き、菜の花畑を眺めながら、両手を広げ、深呼吸をして気分爽快、手造りゼラート「NAMUN」でミルクとブルーベリーのダブルを味わい、ピュアハニー「とち、ラベンダー」、百花、菜の花、アカシア」各60グラムのセットと蜂蜜専用スプーンを購入しました。

帰宅後、画集を開き「放牧地への道」や「七戸近郊・八幡岳」等の作品を見ながら、ふるさとの風景を描き残してくれた鷹山画伯に感謝し、5種類の蜂蜜を丁寧に味わいました。

参考資料等

- 「鷹山宇一の世界」(発行 公益財団法人鷹山宇一記念美術振興会)
- ・一冊二千円+消費税
- ・鷹山宇一記念美術館で販売中

令和3年5月30日に開催された公益財団法人鷹山宇一記念美術振興会臨時理事会において、任期満了により勇退した新谷勝弘前理事長の後任として、振興会理事・高岡和人氏が新理事長に就任致しました。

この度、振興会の高岡新理事長及び新谷前理事長より友の会の皆様へご挨拶をいただいたのでご紹介します。

新理事長ごあいさつ

新理事長 高岡 和人



新理事長 高岡和人

この度、5月30日の臨時理事会において、当財団理事長に就任することとなりました。平成27年から理事を務めさせていただきましたが、今回、理事長となりその重責に身の引き締まる思いがします。美術館開設以来、先代理事長の皆様方の偉大な功績を引継ぎ、このコロナ禍での厳しい美術館運営を全うするため力を尽くしていきたいと考えています。

また、「町民に親しまれる美術館の運営を目指し、芸術文化の拠点として美術教育の推進を図ることにより、町民の潤いある生活や美術活動等に寄与するとともに、観光資源としての機

前理事長ごあいさつ

前理事長 新谷 勝弘

振り返って見ると

平成27年5月に理事長を拝命して以来6年間。

当時の自分の目標は「町民に親しまれる美術館」「町民の潤いのある生活に寄与」「観光資源としての機能」また、町民の誰もが「自分達の美術館」「また行ってみたいと思える美術館」「小さな町の小さな美術館、されど内容の大きな美術館』になるよう尽くしたいとの考えでした。

振り返ってみると、これらの目標には程遠く、達成には至っていないと分かり、自分の浅学非才に恥じ入るだけ입니다。

しかし、開催できた多くの企画展として「片岡鶴太郎展、模型のタミヤ展、渡辺貞一誕生百年記念展、松本零士展、竹久夢二展、キャシー中島展」等々。これらを開催できたことは偏に館長をはじめとする評議員、理事、監事の皆様方のご指導ご協力の賜物と衷心より感謝の意を表しますとともに



新谷勝弘前理事長

に、数少ない現職員の普段の努力によるものと敬服しているところであります。

昨年以来、新型コロナウイルスの感染拡大が始まり現在も拡大中ですが、最近ようやくワクチン接種が始まって来ました。美術館への影響として、「三密」の防止等に配慮しつつ開館して参りましたが、企画展の期間の変更等を余儀なくされるとともに、一番心残りに思ったことは、昨年度実施予定だった記念すべき「第20回鷹山賞児童作品展」を中止せざるを得なかったことでもあります。

近い将来、過去にスペイン風邪が流行し終息したように、このコロナ禍も終息するものと信じております。

人の心を潤してくれる芸術文化は「永遠に不滅」と思っております。

最後に、今後の美術館の更なる充実と発展を祈念し、退任の挨拶といたします。本当にありがとうございました。

キャシー中島

愛を綴るキルト展

7月18日(日)まで開催中!

5月1日(日)、「キャシー中島 愛を綴るキルト展」がオープンしました。展示室内は華やかで色彩豊かなキルト作品に包まれ、お客様を温かく迎えてくれます。



故郷への愛、自然への愛、家族への愛…。キャシー中島氏が愛を込めて綴ったキルトを約100点展示しています。

5/1 初日のお客様



初日の来館者1人目となったのは七戸町の井上早苗さん。館長よりキャシー中島氏の書籍を贈呈しました。

5000人目のお客様

6月3日(木)に入館者数5000人を達成しました。5000人目のお客様となったのは十和田市からお越しの成田洋子さん。長年趣味でキルトを作っているそうで、キルト仲間のご友人と一緒に来館。「今日来てよかった」と大変喜んでいただきました。館長より花束と記念品を贈呈しました。



自分でポーチやバッグを作れるキットや、ハワイアンキルトのような柄のタオルなどグッズも沢山用意しています!

◆南部菱刺し◆

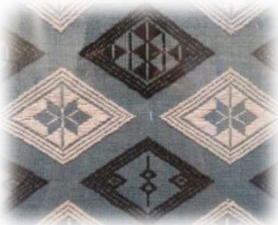


併催で「南部菱刺し」民芸作家 石井キクを開催中です。七戸町出身の民芸作家・石井キク氏の南部菱刺しを

20点展示しています。

「南部菱刺し」は「津軽ごぎん刺し」、「庄内刺し」と並ぶ日本三大刺し子の一つです。麻しか育たない寒冷地で、衣類を自給自足するということは、大変な苦勞と根気のいるものでした。防寒、保温、補修補強という作業の中で生まれたのが美しい菱の模様です。

石井キク氏の作品は、優れた構成センスと美しい色彩で「七戸菱刺し」として愛されました。



細かな作業と美しい色彩に思わずうっとり見入ってしまいます。手仕事ならではの温かみを感じられます。会場では是非ご覧下さい。

キャシー中島 愛を綴るキルト展 / 【併催】南部菱刺し 民芸作家 石井キク

7月18日(日)まで開催中! ※月曜休館



国道沿いに新たに看板を設置しました!

開館時間 / 10:00~18:00 (最終入館 17:30)

入館料 / 一般 1000 (800) 円、高校・大学生 400 (320) 円、小・中学生 200 (160) 円

※ () 内は 20 名以上の団体割引料金

※その他各種入館料割引 (10%割引)

※キャシー中島ギャラリートークは新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止の観点から中止させていただきます。

對馬康夫氏(愛称:リーダー)との出会いにより鷹山宇一の作品の見方が変わりました。調査出張、「宇一が描いた蝶展」、「ちようちよくらぶ」で蝶を追いかけたこと、それを通して私たちは言葉では言い表せないほど多くのことを学びました。

私たちが「ちようちよくらぶ」の活動で目指したのは、マニアの中では知られている「驚愕の白いウスバシロチョウ」を追い求めること。そして七戸町に生息する蝶を追いかけることでした。

きっかけは、鷹山宇一の「少年の日の佛陀」です。この作品はリーダーが初めて作品を標本で再現したものでした。時を超え鷹山作品の新たな可能性に出会った瞬間でもありました。この中に、ウスバシロチョウがいたのです。春、七戸町内を車で走った時ウスバシロチョウが多いことに気づいたといいます。「驚愕の白いウスバシロチョウは知っていたが、七戸にいるとは」と驚いていたの思い出します。確信が変わったのは、「蝶展」展示調査で伺った仙台市のカメイ美術館で頂いた一冊の本でした。その中に七戸町の「驚愕の白いウスバシロチョウ」が掲載されていたのです。この町にいると分かった私たちは、「驚愕の白いウスバシロチョウ」を追い求めました。驚愕とは言えませんが、白いウスバシロチョウを発見することができました。私たちは、さらに視野を広げ七戸町に現在生息している蝶を追いつけることにしました。昨年は、コロナウイルス感染症予防のため活動自粛を余儀なくされました。それでも、七戸町にいる蝶を追いかけてきました。今年もウスバシロチョウ達は元気に活動しています。美術館の周りでも、ベニシジミなど多種の蝶が飛び交っています。やはり七戸町は自然豊かで蝶が多い。鷹山作品だけでなく、日常の景観の見方さえ変わりました。

鷹山作品に描かれた蝶が実在する蝶に繋がり「ちようちよくらぶ」が誕生しました。アートは全てに繋がります。私たちは今、作品を超え、時代を超え、アートの垣根を超えた共振共鳴現象を体験しているのだと。リーダーとともに活動した時を経て強く感じるので。



ちようちよくらぶ

今年もやってきました
ウスバシロチョウの季節!

今年も七戸町には無数のウスバシロチョウが飛んでいます。飛び方に特徴がありますよね。あまり羽をバタバタさせずに飛んでいます。ハングライダーみたいかな??



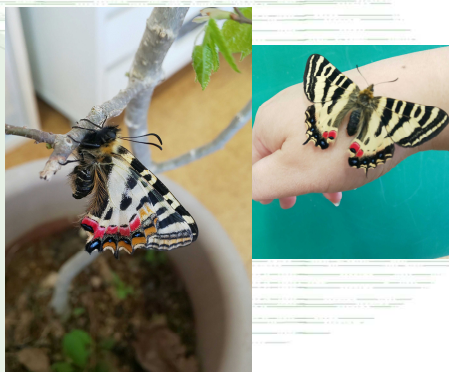
『リーダーは對馬康夫!!』

実は、「ちようちよくらぶ」より前に県の要請により、アートプロジェクトのオブザーバーを依頼され、徳島県神山町に視察に行きました。このときのメンバーは、学芸員、教育普及員、そして研究員對馬康夫氏。そこで「リーダー對馬康夫」が誕生したのです。それ以来どんなときもずっと「リーダー」です。

今も・・・そして、これからも

奇跡が起きました!

「きっと羽化はできないはず」と言われてリーダーからお預かりした幼虫。それがなんと羽化したのです。見てください!このきれいなヒメギフチョウ。(青森市入内産)リーダーもびっくりしていました。そして、とても嬉しそうでした。冗談で七戸に放そうかと言ったら生態系が崩れると怒られました(笑)



長袖、長ズボンに、長靴を履いて首にタオルを巻いたら、虫取り網を持って出発!

リーダーを先頭に草むらを進みます。蝶を見つけたリーダーは一瞬目にダッシュ!すぐに蝶に追いつき狙いを定めると軽やかに網を振って蝶を捕獲。お目当ての蝶が捕まると腰に下げている三角ケースから三角紙を取り出し、ふっと息を吹き込み紙を広げてその中に蝶を収納します。蝶の発見から採集するまでほんの一瞬です。

一方、蝶の採集なんて経験のない私(虫は大の苦手です)は恐る恐るリーダーの後を付いていくのですが、採集に出かけたばかりの頃は蝶に近づくのも怖かったです。そんな私ですが、調査の回数を重ねるごとになんとか網で捕まえることが出来るようになりました。七戸町に生息するとされる「驚愕の白いウスバシロチョウ」を求め、町内の各地を探し回りました。ウスバシロチョウの最盛期には無我夢中で蝶を採集して網の中がチョウでいっぱい!なんてことも。(もちろん色を確認してその後放します)

週に一回の調査の時間が楽しみで楽しみで... 調査に出ると蝶のことだけでなく、「あの木は〇〇でね」とか「この植物は〇〇なんだよ」とか「今鳴いている鳥は〇〇だな」等々、いろんな事を教えてもらいました。物知りなリーダーの話聞きながら自然に触れ、蝶を探す時間は自分にとってとても新鮮で楽しい時間でした。そんなリーダーに影響されてか道を歩いていると、飛んでいる蝶を見つけては「あれは〇〇蝶かな」とか「今のは〇〇科の蝶かも」とふと考えている自分に思わず笑ってしまいます。

ちようちよくらぶの会員の皆さんと蝶の採集に出かけたことや蝶の幼虫を育てたこと、標本づくりをしたことなど、まだまだ“あれこれ”お話ししたいことはありますが、今回はこの辺で。

学芸員：遠藤 未奈子

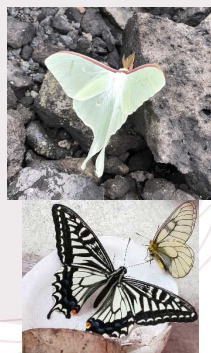


ちょっとご紹介!

数日前、家の車庫の明かりにオオミズアオが乱入!
【オオミズアオ】チョウ目・ヤママユカガ科
開張 80-120mm
白っぽいグリーン色

リーダーが収集を希んでいた蛾のひとつです。

右の写真は、ナミアゲハとウスバシロチョウ。



「ちようちよくらぶ」では七戸町で出会った蝶の紹介や「ちようちよくらぶのあれこれ」と題して今まで紹介出来なかったお話を中心に学芸員と教育普及員で紹介していきます。令和3年度「美術館あーとくらぶ」は次号の友の会会報で今年度の予定をお知らせ致します。それまで、もうしばらくお待ちください。

教育普及員/織川孝子

◆公益財団法人鷹山宇一記念美術振興会が5月30日開催の定時評議員会及び臨時理事会において新体制となりましたので、理事、監事、評議員をご紹介致します。宜しくお願い致します。

～理事・監事・評議員～

- | | |
|---------------|---|
| 【現評議員】 | 子史学雄蔵彦則一枝文 子子
いね武 秀豊勝忠壽松吉員 敦慶
澤川内山訪内中井良田 藤尾
石小大下 諏竹田照奈盛 |
| 【新評議員】 | 伊長 |
| 【理事】 | (再任) 人一人 敬和
(再任) 和榮ひばり 廣健
(再任) 岡館山 敬和
(再任) 高戸鷹新 敬和
(再任) 長理事館 敬和
(再任) 理事館 敬和
(再任) 新常務理事 敬和 |
| 【監事】 | 章 廣健
林村 敬和
小中 敬和 |

～任期満了・退任の役員～

- 【任期満了】** (5月30日付)
理事長 新谷勝 弘夫
理事 石井淳 誠
- 【退任】** (5月30日付)
評議員 加賀 誠

長きに渡り、多大なご尽力を賜りました。ありがとうございました。

美術館日誌

◆4月◆



▲展示風景 (絵画室1)
脚立に乗り二人で作品を展示。
青森スタジオさんいつもありがとうございます。

- ▼1日(木) 辞令交付式13時
常設展初日
- ▼6日(火) 電気設備定期点検 (青森スタジオ 佐藤電気)
- ▼8日(木) コピー機調整 (テクノル)
- ▼9日(金) PC入替打合せ (東京堂・常務理事・織川)
- ▼10日(土) 友の会会計監査 2F
- ▼13日(火) 収蔵作品監査 (工藤組)
- ▼15日(木) 空調設備工事打合せ (工藤組)
- ▼15日(木) キャシー中島キルト展打合せ (キャシー事務所、美術館スタッフ)
- ▼18日(日) 常設展最終日
七彩会
- ▼20日(火) 常設展作品撤去作業
- ▼25日(日) 常設展作品撤去作業
- ▼28日(水) 30日(木) キャシー中島キルト展展示作業 (スタジオK・青森スタジオ)

◆5月◆



▲入館一人目の取材風景 (受付)
取材を受ける一人目のお客様。開館前から並んでくださいました。

- ▼1日(土) キャシー中島 愛を綴るキルト展初日
- ▼12日(水) 友の会役員会 2F
- ▼12日(水) 財団会計監査 2F
- ▼14日(金) 電気設備定期点検 (佐藤電気)
- ▼15日(土) 「カミシヨ」(カミシヨ) 地域特派員織川
- ▼15日(土) 理事会 2F
- ▼16日(日) ホームページ見直し打合せ
- ▼18日(火) ニュースリーダー取材 (材株、常務理事、織川)
- ▼19日(水) ニュースリーダー取材 (青森放送)
- ▼25日(火) 評議員選定委員会
- ▼25日(火) 空調設備工事工程打合せ (工藤組、生涯学習課・常務理事 遠藤、織川)
- ▼30日(日) 定時評議員会 臨時理事会
新理事長 高岡和仁氏就任

◆6月◆



▲贈呈したのは、花束とキャシーママのタオル。ベビーピンクがかわいらしく、この展覧会にぴったり。

- ▼5日(土) 友の会総会 2F
- ▼8日(火) 七戸町長、副町長、教育長表敬訪問 (新理事長、常務理事)
- ▼9日(水) 自動ドア点検 (ナフコンシステム)
- ▼10日(木) 消防設備点検 (昭和電気)
- ▼14日(水) 電気設備定期点検 (佐藤電気)
- ▼14日(水) 空調設備工事 (外階段取付) 会報入稿 団体15名来館
- ▼19日(土) 七彩会 2F
- ▼26日(土) 会報発送 2F

空調設備工事のお知らせ

7月22日(木)～9月30日(木)
館内空調設備工事の為、休館となります。
但し、職員は在勤しております。

※駐車場内を走行する際は、工事車両に十分ご注意ください。

ご不便をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願い致します。



『日本のミケランジェロ』
といわれた
石川雲蝶に出会う旅

十和田市 下山恭美子

どの号だったか今となつては定かではないが「大人の休日クラブ」の冊子の彫刻に目を奪われた。

新潟県魚沼市の西福寺開山堂へ奉納された彫刻師・石川雲蝶の作品。平面に印刷されたものであつてもその立体感、施された色彩、ドラマ性等、本物に對峙したらどんなに感動するだろうとすつかり虜になつてしまつていた。しかもその妙技と才能は木彫りにとどまらず、石彫や絵画にまで及ぶことから『日本のミケランジェロ』と称えられているという。

行きたい思いがあつても遠方の地とてなかなか機会がないまま日延べしていったが・・・チャンス到来！夫の大学同期会が長野で行われることになり夫婦同伴出席とのこと。雲蝶の作品見たさに早速同意し足を延ばすことにした。

あまり関係のない同期会の翌日、雲蝶の作品に会うためいそいそと出かけた。市街地を遠く離れた

山麓にある寺とて電車とタクシーを乗り継ぎ到着、参拝者というより雲蝶の作品目当てとおぼしき人々でさほど大きくはないお寺は大にぎわい。感動や感想を語らいながら往来する人々の間を縫つて真つ先に向かった開山堂。

「道元禅師猛虎調伏の図」と題された部屋いっぱい天井彫刻の壮大さに圧倒されて言葉もなく見上げていくばかりだった。それは修行中虎に襲われそうになつた道元禅師を龍神が守りするという物語を極彩色豊かな透かし彫りで表現したもの。



「道元禅師猛虎調伏の図」

堂内階段の両脇に立ち、開山堂を守護する仁王像は高さ2メートル余りのケヤキの一本彫り。全身に

木目が波打つ様は今にも動き出しそうな迫力がみなぎる。その他の回りの彫像や欄間も含め一人で手掛ける初めての大作となつた雲蝶の代表作であるという。



「鬼退治仁王尊阿形」

他に、壁画や本堂の襖絵、欄間などにその鬼才ぶりがみられ、まさに『日本のミケランジェロ』だと感服した次第である。

1814年、江戸に生を受けた雲蝶が縁あつてこの地にその才能を發揮し70歳で終焉を迎えるまで残した多くの寺々の、多くの作品の中のほんの一部をしかも短時間でしか鑑賞出来なかつたが、思いを遂げた満足感でいっぱい。山門で石地蔵が優しくほほ笑んでくれたように見え手を合わせ、また、この機会を作つてくれた夫にも心の中で感謝せずにはいられなかつた。

せきじょうさん さいふくじ かいさんどう
赤城山 西福寺 開山堂

住所：新潟県魚沼市大浦174番地
連絡先：TEL 025-792-3032
JR上越新幹線又はJR上越線
浦佐駅下車タクシーで約10分
拝観時間：9:00～16:00（最終受付15:40）
拝観料：大人 500円
御朱印：記帳不可の時間帯12:00～13:00/
15:00以降／混雑時
※寺内は撮影禁止です。
※詳細は、ホームページ等を参考にして下さい。

追悼 對馬康夫氏

鷹山宇一の作品に描かれた「蝶」から本物の「蝶」を同定できることを教えてくれたのが、對馬康夫氏である。
長年鷹山作品に描かれた蝶を見てきたが、その様なことは想像できず、ある時、所有している油彩画に描かれた十数種類の蝶の名前を覚えて頂き、感動したことを覚えている。

2019年の美術館開館25周年記念「宇一が描いた蝶展」の開催、ユニークな図録の執筆・編集指導など、對馬氏の美術館に対する貢献は誠に大きなものがある。また、新鷹山画集を基に作品に描かれた蝶を研究して会報に数回にわたり連載して頂いたことは、会員が新たな視点で鷹山作品を見直す契機ともなった。
氏は、穏やかな語り口の学究派であるが、蝶に関しては行動的なた方であった。
ご冥福をお祈り申し上げます。

会員 戸館栄一

画集を携えて Part VI
七戸近郊の風景を探して

八戸市 照井壽一

未だに何処から見た風景なのか特定出来ずにいますが画集「鷹山宇一の世界」に掲載されている七戸町近郊の風景探しを続けています。

5月中旬から6月上旬にかけて奥羽牧場周辺や七戸川の両岸に広がる田園風景探しを楽しみました。

左の写真は、5月上旬に七戸川にかかる新川原橋から七戸高等学校方面に200メートルほど進んだ上り坂の途中から撮影した向田地区の田植え前の写真です。遙か遠くに見える八甲田の山々が水田に逆さに写っている風景を初めて見ることが出来ました。田打ちが始まり水を引いてから田植えが始まるまでの数日間だけ見ることが出来ます。



水田に写る八甲田の山々



八幡岳と八甲田の山々
八幡岳：上北郡七戸町の西方 標高：1,022m

来る風景だと思えます。右の写真は、6月上旬に同じ場所から撮影した写真です。正面に八幡岳、その左側には冠雪を残す八甲田の山々、写真中央の杉木立の間に見える赤い屋根は、願い叶う絵馬の町を象徴する小田子不動堂です。せっかく来たので参拝しようと思いましたが、ついでの参拝はお不動様に失礼と思い、日を改めて訪問することにしました。週末の土曜日、新型コロナウイルス感染症の収束を願う小田子不動堂に参拝、願いが叶う時は軽く持ち上げるといふ願掛け石を持ち上げました。持ち上げはしたもので「軽く」といふ感じでは無かったの願いが叶うかどうかの判断に迷っています。

参考資料
七戸町観光パンフレット、その他

新規会員入会お誘いのお願いと

友の会会員登録更新のお願い

令和2年度も会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。新年度も友の会では、鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様に喜んで頂ける研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。尚、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っております。

○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行(年2〜3回)
- ②海外美術館研修旅行
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

年会費 3千円
特典 ①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引

○特別会員

(個人・法人) 年会費 1万円
特典 ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館

○賛助会員

(個人・法人) 年会費 2万円
特典 ①会員証提示に加えて

- ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
 - ②新規加入の方に画集1冊贈呈
 - ③特別企画展の都度、招待券を贈呈
- ◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

★お知らせとお願い

会費の納入は随時受け付けておりますが令和3年10月1日以降に新規会員となられた方は、翌々年の3月31日までの会費となります。尚、会費納入通知書代金等の通信経費節減のため、窓口での会費納入へのご協力をお願い申し上げます。

編集後記

会報第103号をお届けします。マスク着用、検温等、新型コロナウイルス感染症予防策を行つての通常総会が無事終了。皆様の協力に心から感謝申し上げます。有難う御座いました。(照井壽一)